

緑生擁壁の荷下ろし方法

(株)丸治コンクリート工業所

1、製品諸元

RA800 (I型) 468kg/個 規格製品最大値

2、荷下ろし方法

荷下ろし用に用いるロープは、ワイヤーロープやスリングベルトとし、安全率 6 を確保したものとする。なお、有資格者が行うこと。

写真-1 は、ワイヤーロープを用いて、施工用の配力筋を利用した方法であるが、基本的に傾斜すること、上部のブロックがワイヤー等に係留されていないため、写真-2 の荷下ろし方法が取れない場合に限って使用する。出来れば、荷受人の協力を仰ぐこと。

写真-2 は、ブロック背面の半月状の開口部にワイヤー等を通し掛けして荷下ろしをする方法であり、バランスが良くワイヤー等がブロックに掛かっているため安全性が高い。

$468 \times 2 = 936\text{kg}$ 0.936 トン $\times 6$ (安全率) = 5.616 トン

ワイヤー径 12mm (4分) 切断荷重 7.24 トン 1本吊り基本安全荷重 1.2 トン
を使用する。また、同等のスリングベルト等を用いること。

(1個ずつでの荷下ろしの場合の使用ワイヤーは、同様の考え方で選定すること。)

※6×24 A種 JIS G 3525のワイヤーの値を使用



写真-1、配力筋利用方法



写真-2、背面開口利用方法

《参考》 施工時の吊り方

製品側面にある配力筋を下方に曲げ
ワイヤーが外れないようにする。

施工時のワイヤー規格

10mm 切断荷重 6.5 トン以上

出典：宅造認定緑生擁壁付属図書より

